



なおみとこんまりが アメリカを変える???

か も よしのり
賀茂 美則

●ルイジアナ州立大学社会学部 教授 学部長

アメリカで「今一番有名な日本人は？」という質問を試みよう。現役引退したばかりのイチロー、二刀流の大谷翔平がベスト10に入るのは間違いない。それに続くのが全米、全豪オープンを連覇した大坂なおみ、というのも納得できるであろう。さて、その次、もしくはそれ以上なのが、「こんまり」である。

男性の読者はご存知だろうか。近藤麻理恵。「人生がときめく片づけの魔法」が2011年に日本でミリオンセラーになった後、2014年にアメリカに移住。今年の1月、インターネット配信TV局の最大手、Netflixでシリーズ番組が始まると一気にブレイクし、今やテレビに雑誌にネットに引っ張りだこである。

さて、「こんまり」であるが、アメリカ在住の日本人には概して評判がよろしくない。まず、いつも通訳（やはり「まりえさん」と一緒に、英語をあまり話さない。さらにはいつもにっこりしており、喜怒哀楽をあまり見せない。片付けを依頼された家族が自主的に動くように「応援」し、やり方を手際よく見せるものの、決して強烈な自己主張をする訳ではない。

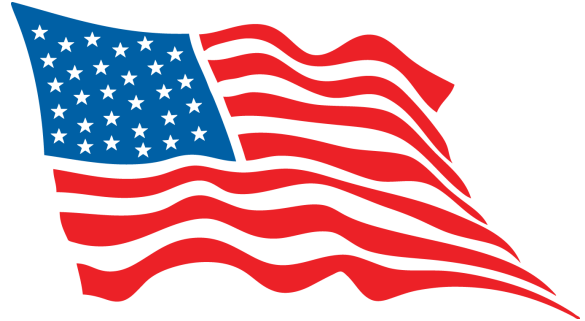
と、書いていくとわかるのであるが、これはこれまで、「アメリカに移住する日本人がやってはいけないこと」のオンパレードなのである。

筆者が大学生として初めてアメリカに来たのは

1980年であるが、周りから当然のように言われたのが「英語を話せ。訳のわからない笑顔は封印しろ。喜怒哀楽をはっきり見せろ。自己主張しろ」であった。実際のところ、筆者を含めて、この「教え」を忠実に実行した日本人がアメリカに残る傾向が強く、日本に一時帰国する時などには「カメレオン」になって「日本向けのパーソナリティ」に切り替えないと、「アメリカかぶれの自己中」と言われるのが関の山である。

自分たちが今まで努力してきたのと正反対のことをやっている「こんまり」が認められているのは、在米の日本人の多くにとって自己を否定されたような気がする、というのは考えすぎだろうか。

似たようなことが大坂なおみにも感じられる。昨年9月の全米オープン決勝、相手のセリーナ・ウィリアムスが主審への暴言でペナルティを取られ、涙ながらに抗議して観客を巻き込んだものの大坂に完敗した、あの試合。優勝インタビュー、まだ騒然とし、ブーイングも聞こえる観客の前で、初の4大大会を制覇したのに一切の笑顔を見せず、「期待した結果にならなくてごめんなさい」と謝った大坂が「なんて謙虚なんだ」と称賛された。今年1月、全豪で4大大会を連覇した際のインタビューも、第一声の「Hello」で笑いを取り、理由のないところで笑ったり、はっきり言えばしどろもどろの内容なのに「天然でキュート」と絶賛



されることに違和感を持ったのは筆者だけではなかった。

これまでアメリカでやってきた日本人と言えば、「郷に入れば郷に従え」とばかりに「強気」と「自己主張」を前面に出し、仏頂面も辞さないことが多かった。その典型がオノヨーコと野茂英雄だ。イチローもここに入るだろう。そこに現れたこんまりと大坂なおみは、これまでなら「薄気味悪い」と敬遠されてきた「笑い」を賛辞に変えてしまったとも言える。

日本発のポケモンやアニメやキティちゃんが世界中に広まるにつれて、「kawaii」という言葉と感覚が世界中で認知されるようになったのはここ20年くらいであろうか。こんまりと大坂なおみは、どちらも「kawaii」女性として認められているようでもある。

この傾向をアメリカの側から見ると、全く違った景色が見えてくる。「今だけ金だけ自分だけ」と揶揄される大企業と金融システムに牛耳られるようになってしまった超大国、アメリカ。イギリスからの独立以来、国家としての正当性、人種・民族としての独自性、個人としての自己の価値を「主張」し続けて来ざるを得なかったアメリカ。トランプ大統領の時代となり、これまで以上に国家間、人種・民族間、個人間の軋轢が強まったように見えるアメリカ。先進国の中ではトップクラ

スの貧富の差を生み出してしまったアメリカ。

さすがにずっと「自己主張」を続けると誰しも疲れるものだ。自己主張が苦手でおとなしい性格のアメリカ人が「協調と和」を重んじる日本などアジアの社会を居心地良く感じ、その国に居着いた例も過去に限りなくある。何十年、何百年と続いてきた自己主張と競争主義に疲弊したアメリカが、こんまりと大坂なおみに「これまでと違う人間性」を新たに見つけた、というのは考えすぎだろうか。

アメリカはここ30年くらい、ダイバーシティ（多様性）という言葉が流行りである。これまで、ダイバーシティと言えば、人種・民族的、性的マイノリティ、障がい者などを分け隔てなく受け入れる多様な社会、という意味を持っていた。しかしながら、「自己主張より和を尊ぶ人間性」を受け入れるのも立派なダイバーシティである。人種・民族、性的指向、障がいに関するダイバーシティから人間性に関するダイバーシティへ。

ポケモン、アニメ、キティちゃんと並んで、こんまりと大坂なおみがアメリカ社会とその人間性の変貌に影響を与えているとすれば、これこそ日本がアメリカに与えたもっとも大きな、そして素晴らしい貢献であるのかもしれない。